

## GPN の活動より



### GPN500 万人で取り組むグリーン購入一斉行動 6月は、買い物袋を持って、旬や地場の食べものを選ぶ ～食のグリーン購入で地球温暖化防止～

グリーン購入ネットワークでは、個人レベルからグリーン購入を実践し、地球温暖化防止を加速させるために、昨年 10 月に続き、環境月間である 6 月の 1 ヶ月間、「GPN500 万人グリーン購入一斉行動」を実施いたします。毎日の料理に旬や地場のものを一品や二品使うところから始めて、家族や職場で話題にしながら、楽しく続けられるように取り組んでみましょう。

#### キャンペーン実施概要

- テーマ：買い物袋を持って、旬や地場の食べものを選ぶ
- 行動期間：6 月 1 日（日）～6 月 30 日（月）
- 行動内容：
  - ・スーパーや生協、コンビニエンスストア、百貨店、商店街等で買い物をする際、旬や地場（国産含む）の食材を買い、レジ袋を断る
  - ・レストランや居酒屋、ファストフード店等の外食店で食事をする際、旬や地場の食材を使った料理を食べる



#### ■地域から地産地消を実践しよう！ —みえ・グリーン購入倶楽部—



基調講演の嘉田 良平教授

みえグリーン購入・倶楽部では、5 月 20 日（火）に総会と合わせてグリーン購入セミナーが開催されました。当日は、横浜国立大学大学院 環境情報研究院の嘉田良平教授が「高まる食品リスクと身の回りの環境問題」として講演されたほか、グリーン購入ネットワークから、6 月に実施する「グリーン購入一斉行動キャンペーン」の概要と参加団体の実践例を紹介しました。

講演の中では、持続可能な食糧の生産と供給に関するリスクが高くなっていることが話され、その原因として、地球温暖化による生産国の自然環境と地域住民への影響、食料のエネルギー（バイオ燃料）への転換、感染症の拡大や経済のグローバル化など食料リスクの拡大が挙げられました。そして、食料の多くを海外に依存している日本も、食糧自給率を改善するために、私たち消費者が、食べる量や食べるもの、食べ方を見直していく必要がある、と語られました。

講演の中では、持続可能な食糧の生産と供給に関するリスクが高くなっていることが話され、その原因として、地球温暖化による生産国の自然環境と地域住民への影響、食料のエネルギー（バイオ燃料）への転換、感染症の拡大や経済のグローバル化など食料リスクの拡大が挙げられました。そして、食料の多くを海外に依存している日本も、食糧自給率を改善するために、私たち消費者が、食べる量や食べるもの、食べ方を見直していく必要がある、と語られました。

#### ■食糧自給率 11% ハムや漬物から地産地消のすすめ —埼玉グリーン購入ネットワーク—

埼玉グリーン購入ネットワークでは、「埼玉発：地域からグリーン購入を広げよう 「地産地消」のすすめ」と題して、6 月 17 日にグリーン購入フォーラムが開催されます。

埼玉県副知事の岡島敦子氏が、食料自給率 11%（平成 18 年統計）と低い埼玉県が取り組む「地産地消」や今後の展開について講演される他、地元埼玉県で、食と環境で活躍している企業（株）埼玉種畜牧場サイボクハム、（株）ピクルスコーポレーションがそれぞれ事例発表を行います。地元の食材を知ることで、より「地産地消」が身近になり、地域の魅力を再発見するきっかけになるのではないのでしょうか。

- 開催日：6 月 17 日（火）
- 会場：埼玉県 / 新都心ビジネス交流プラザアルーサ A 館
- プログラム
  - ・埼玉県の環境と地産地消（仮称）埼玉県の環境とその取組、地産地消、地産地消と温暖化防止のつながり、埼玉県の地産地消の取組とすすめ
  - ・グリーン購入先進事例・緑の牧場から食卓へ（仮称）（株）埼玉種畜牧場サイボクハム
  - ・お漬物は栽培農家より調達（仮称）（株）ピクルスコーポレーション
- お問い合わせ：埼玉グリーン購入ネットワーク

TEL. 048-649-8487

## GPN の活動より

### 一斉行動がんばります宣言 & 応援メッセージ!

今回も前回同様、非常に多くの団体の方から参加表明があります。一斉行動キャンペーンへ参加表明のあった団体から、一斉行動キャンペーンへの意気込みが寄せられています。ここでは、その中からいくつかをご紹介します。

嘉田 良平教授  
からの  
メッセージ

輸入穀物の価格高騰を機に、ようやく日本の食糧自給率の低さが問題視されるようになりました。大切なことは、「低すぎる食糧自給率」こそが、①日本が直面するリスクの中で最も重大なリスクであること、②地球環境に巨大な負荷を与えていること、そして、③世界の飢餓問題に悪影響を及ぼしている、という事実ではないでしょうか。一斉行動キャンペーンによる実践を期待しています。



東温市では、2月に策定した地域省エネルギービジョンにおいて、環のまちづくり（ロハスタウン）を目指し、地産地消の推進によるフードマイレージ削減と食の安全・安心の向上、マイバッグ持参運動など温暖化対策を進めていくこととしています。このキャンペーンに参加し、職員の環境意識のより一層の向上を目指します。地産地消を合言葉に、地場産の食材の購入を呼びかけしています。また、小学校などでは総合学習の時間を通して、食と農が連携した食育を進めています。さらに健康推進課では現在、食育推進基本計画を策定中です。



食を取り巻く環境はますます厳しさを増しております。そんな中で一人ひとりが取り組める活動は非常に意義があります。頑張ってください。弊社では、容器包装の重量を減量して省資源に取り組んでいます。また製造工場で発生するバイオマス資源の利活用に積極的に取り組んでいます。



私たち一人ひとりができる、地球への小さな思いやり。『YES! 地元食材』『NO! レジ袋』。弊社では、「食」及び「食育」をテーマとした書籍出版物を発刊し、啓発活動を行っております。

- 出版物……「人間環境白書2 からだに良い食 悪い食」、「最新地球環境白書2 新・今「食」が危ない」「学研ムックムー謎シリーズ からだがよろこぶ 自然食2002」「ラポムブックス 保育・教育現場のための食育レシピ」、「教育ジャーナル選書 学びを深める 食育ハンドブック」、「ラポムブックス おいしいうれしい楽しい保育・教育現場のための食育」



豊かな自然を次の世代に継承するために、一斉行動の輪を広げていきましょう!



北九州市でも、全市共通の「ノーレジ袋ポイント事業」(カンバスシール)を平成18年12月より展開しており、レジ袋の発生抑制に取り組んでいます。GPNによるこのキャンペーンをとおして、市職員をはじめ市民や事業者の皆さんとともに、レジ袋辞退、食のグリーン購入、マイ箸の励行などに取り組んでまいります。



北海道 GPN の発起人としてグリーン購入の輪が広がるように広報し、私たちに出来ることを常に心がけ、出来ることに取り組みます!! (櫻井組)

今回も全社あげて積極的に参加いたします!! (ライオン事務器)

青森県は知事自ら「地産地消」を呼びかけており、あおもり産品情報サイト「青森のうまいものたち」に地産地消が紹介されています。フードマイレージ削減のためにも「地産地消」を心がけています。(青森文具)

URL <http://www.umai-aomori.jp/known/chisan/chisan.phtml>

昨年の一斉行動に続き、今年も全社をあげて参加します。併せて、今回の目玉である食育についても、消費者側として、小売店・飲食店の参加による効果に期待したいと思います。(アーレスティ)

我々日本人の日々の食生活がどれだけ地球環境に負荷をかけているかを認識するためにも、この活動は大変意義あるものだと思います。(馬印)